

●奨励賞〔論文概要紹介〕

英語の4技能を伸ばす実践

～Writing指導を中心として～

岩手県盛岡市立下橋中学校 すずき いずみ
鈴木 泉

【実践の概要】

本研究は、英語における「4技能の総合的な育成」を目指し、昨年3月までの3年間、生徒を指導した実践内容である。英語の4技能の中でも「書くこと」がもっとも大切で他の技能も高めていく活動と考え、「書くこと」を中心に据えて指導を行った。

【論文内容の紹介】

1 3年間の計画

単元のゴール : 「まとめの英作文」
学期のゴール : 「英語劇／英語の紙芝居」
1年間のゴール : 「各学年の『目標』」
3年間のゴール : 「英語の『卒業文集』」

「目標」がなければ「目的」を持った指導を行うことはできない。私は、3年間のゴールを「英語の卒業文集」とし、上記のよう学年・学期・単元のゴールを位置づけた。

2 具体的な指導

(1) 「よいモデル」の提示

教科書の音読テストは、授業の中で一人ずつ音読をし、生徒の相互評価や自己評価を取り入れている。生徒は上手な生徒の読み方を聴き、「よいモデル」にしている。

また、生徒が書いた英作文の中で優れた作品は、廊下の壁に掲示している。生徒はそれらの作品を、英作文をする際の「よいモデル」にしている。

(2) 個人指導の工夫

① すらすらノート

生徒は家庭学習として、自分で英文を作り、ノートに書いてくる。提出されたノートを私が見てコメントを書き、返している。ノートを通しての個人指導になっているのだ。

② 英会話テスト

生徒は、私と1対1の英会話テストを行っている。あらかじめ示した期間の休み時間などに廊下などで私にテストを申し込み、その場で実施するのだ。よかった点・よくなかった点はその場で指摘し、指導している。

③ Writing Notebook

3年生になった生徒全員に取り組みさせたのが、この”Writing Notebook”である。これは1週間のサイクルで、課題に沿った英作文を個人指導するノートである。

毎週末、英作文の課題をプリントにして出し、生徒はそのプリントに直接英文を書き、月曜日の朝に提出する。私はそれを1枚1枚見て、ミスに朱書きを入れて月曜日の放課後にすべて返す。生徒は、今度はそのプリントをノートに貼り、自分でミス直して再度ノートに英文を書き、金曜日までに再び私に提出する。このサイクルを毎週行った。

このノートを通した1対1の指導によって、生徒は英文のミスが減り、よりよい英文が書けるようになっていった。

3 今後の課題

上記のような実践で、生徒の4技能は徐々に高まった。それは諸検査等で明らかになっている。

これからの課題は、「自分で自分の英文を推敲」でき、「読み手を意識した英文を書く」生徒の育成である。ミスの少ない英作文が必ずしもよい英文とは言えない。自分で自分の英文を読み、文法・語法上のミスだけではなく、読み手を意識した英文を書き上げることのできる生徒を育てていきたい。それが、新学習指導要領の目指すところでもある。そのための指導について探っていきたい。

●奨励賞【論文概要紹介】

互いに学び、高め合う 理科授業の実践 ～ICT活用を通して～

なかにしかず お
滋賀県守山市立守山北中学校 中西一雄

【実践の概要】

本研究は、Wi-Fi機能内蔵SDカード、ペンタブレットというICT機器の活用により、生徒間の相互学習作用を高めることを目指した中学校理科授業の実践である。

生徒が自らの意見を表現する機会、他の生徒の姿に着目する機会を充実させ、さらには表現活動の場面だけでなく、理科授業のさまざまな場面で生徒が互いの思考、行動から学び合うことで、表現力や思考力、ひいては理科の目標である科学的探究力を育成することにつながると考え、実践に取り組んだ。

上記ICT機器の活用により、生徒の他者から学ぶ姿勢が身に付き、表現力や思考力を高めることができた。また生徒の記述に着目する意識が高まり、授業者の学習内容への視点の明確化、

生徒の思考の理解が進んだ。

【論文内容の紹介】

1 研究内容

- (1) 考えを記述する段階でのICT活用
- (2) 考えを表現する場面でのICT活用
- (3) 議論する段階でのICT活用
- (4) 実験・観察の段階でのICT活用

2 ICT活用の実際

- (1) 考えを記述する段階でのICT活用

課題に対する思考が早くできた生徒の、記述内容（文章・図・絵等）をWi-Fi機能内蔵SDカードを挿入したデジタルカメラで撮影し、プロジェクターを介してスクリーンにリアルタイムに拡大表示した。

- (2) 考えを表現する場面でのICT活用

(1)と同様に撮影した記述を拡大表示し、発表させた。その際発表者にはペンタブレットを使用させ、注視点や補足内容を記述させた。

- (3) 議論する段階でのICT活用

撮影した生徒の記述を複数表示し、考え方の共通点や異なる点をペンタブレットで記述、整理した。

- (4) 実験・観察の段階でのICT活用

各グループの実験・観察の途中経過や結果を撮影し、順次リアルタイムにスクリーンに提示した。その際、ペンタブレットでの補足も行った。また実験・観察器具を高い技能で扱っている生徒の様子や、実験結果を工夫して整理している様子などを動画で撮影し、順次スクリーンに提示し、繰り返し再生した。

3 研究の成果と今後の課題

本研究では、3年次の理科の授業において、ICT機器を活用した学習支援を継続して実施した。2・3年次授業終了後の生徒のワークシート記述比較分析では、表現方法の多様化、文章記述内容の増加、キーワードの使用頻度の増加

など、一定の表現力の高まりが見られた。生徒の記述や実験・観察における優れた技能や工夫を学級全体に提示したことで、生徒に他者の考えや表現方法から学ぶ姿勢が身に付き、生徒の技能や表現力や思考力が高まったと考えられる。しかしながら、自ら考えを表現する、議論に参加するといった意欲の向上につなげることができなかった。今後中学校3年間を通じた実践や、またICT機器の使用を授業者から生徒へと広げる授業デザインを研究していきたい。